

6. 北陸（地域別調査機関：一般財団法人北陸経済研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明	
家計 動向 関連  (北陸)	良く なっている	-	-	-	
	やや良く なっている	スーパー（店舗 管理）	来客数の動き	・天候の影響で客足の分散が懸念されたが、来客数が前年を上回っている。さらに、買上件数も追随しており、売上を押し上げている。	
		コンビニ（経営 者）	販売量の動き	・来客数、客単価共に前年をやや上回った状態で好調に推移している。たばこの値上げが4月上旬からあり、たばこについては3月の売上は前年同月を超えていたが、4月に関しても前年割れになることなく、やや超えるぐらいで推移しており、値上げの影響はなかった。特にファストフードや、携帯やゲームなどのカードの売上は好調に推移している。	
		コンビニ（店 長）	競争相手の様子	・近くの競合店舗が閉鎖したため、前年比で20%程度伸びている。その他、来月に10キロ圏内で1店舗閉鎖する模様である。淘汰されたというよりも、契約の節目で継続が経営上困難なための閉鎖であると常連客などから聞いた。それ以外に売上の上昇理由は今のところ見当たらない。	
		乗用車販売店 （経理担当）	販売量の動き	・4月の販売量は前年同月比115%の見込みである。28年1月の販売量は前年同月比100%だったので、3か月前と比較して上向きである。	
		スナック（経営 者）	来客数の動き	・4月初めは暇な日も続いたが、その後は客の流れもなんとなくいつもどおりといった日々が続き、新しい客もあつたため前年同月を少し上回った売上となり安心したところである。ただ、客の中には少しずつ厳しさが出てきているという会話がある。	
		旅行代理店（所 長）	販売量の動き	・新年度に入り取扱件数に動きがみられる。	
		タクシー運転手	来客数の動き	・新年度に入り、気候も良くなってきているので、観光客が増えてきている。特に外国人の観光客が増えている。	
		通信会社（職 員）	販売量の動き	・引越しシーズンもあったが、契約獲得数が予想以上に増えた。	
		通信会社（役 員）	販売量の動き	・前月以降、新規契約獲得件数が前年度比3割程度増加している。光回線サービスを前年度末までに全営業エリアで提供開始した効果が大きいと考えている。	
		競輪場（職員）	来客数の動き	・1月の1日平均入場人数が1,673人、1人当たりの購入単価が19,800円であった。4月の1日平均入場人数が1,704人、1人当たりの購入単価が19,900円である。	
		住宅販売会社 （従業員）	販売量の動き	・受注は、年明けから先月まで順調に伸びていたにもかかわらず、目標に対し未達であり、前年同月実績に比べても減少した。消費税増税について、先行きの見通しが読めない状況が影響したかも知れない。ただし、通期では前年比で増加している。	
		変わらない	商店街（代表 者）	来客数の動き	・大きな変化はない。
			一般小売店〔事 務用品〕（店 員）	販売量の動き	・入学式や入社式などがあり、関連物品の購入や整備の動きが例年より微増しているが、薄利である。
		スーパー（店 長）	販売量の動き	・天候の不順や熊本地震の影響もあるのか、買物動向をみてもあまり多くを購入するような様子ではない。	
		スーパー（総務 担当）	販売量の動き	・スーパーマーケットやドラッグストア、ディスカウントストアといった競合店の出店が続き、地区により価格競争が激化している状況である。全店ベースでも1人当たり買上点数が減少基調であるが、現在の影響度はわずかなことから横ばいと考える。	
		コンビニ（経営 者）	販売量の動き	・売上は若干上昇しているものの、あくまでも季節的な伸びの範囲であり、前年比をみると全く変わっていないと考える。	
		衣料品専門店 （経営者）	来客数の動き	・2～3月は例年に比べて悪かったが、4月は一転して順調である。例年との違いとしては、新しく就職したとか就職活動用であるとかいう客が少し増えている気がする。必要なものにはお金を使うが、我慢するところは我慢するというところではないだろうか。	
		家電量販店（店 長）	お客様の様子	・来客数は減ってきているが、商品単価は上がっているため売上は変わらない。	

乗用車販売店 (従業員)	販売量の動き	・新車、中古車の販売はそこそこではあるが、整備、車検、点検などに関しては、当初の計画を大きく下回っている。	
乗用車販売店 (役員)	販売量の動き	・3月に鋼材メーカーの爆発事故に起因する配車遅れで販売できなかった分が4月以降に回ってきたので、受注はかなり前年比増加の水準だが販売には結び付いていない。	
自動車備品販売 店(役員)	お客様の様子	・タイヤ履き替え需要期が例年より長引いており、新品への入れ替えも多かったが、出来る限り交換したくないと言う客と、せっかく購入するならばと中間層の商品を選ぶ客に分かれている。また、車販売は4月に入っても好調に推移している。	
観光型旅館(経 営者)	販売量の動き	・4月は、前年に比べて大型の団体予約が3本なくなり、売上は前年比10%程度落ちている。ただ、北陸新幹線開業前の一昨年と比べると上回っている。	
観光型旅館(ス タッフ)	来客数の動き	・前年比で総売上123%、宿泊人数109%、宿泊単価115%であった。14名以下の個人客が64%を占め、個人客の宿泊単価が前年比2,800円アップしたことが、前年売上を上回った大きな要因である。	
都市型ホテル (役員)	販売量の動き	・宿泊部門は、昨年に北陸新幹線開業があったので本年は観光客、ビジネス客の減少を危惧していたが、インパウンドも含めて前年と同様の動きである。レストラン部門は個人および法人が力強く回復しているというまでには至らないが、前年と同じように推移している。	
旅行代理店(支 店長)	単価の動き	・客の希望単価は上がっていない。	
タクシー運転手	販売量の動き	・全体的に静かに落ち着いているが、時間帯でホテルのチェックアウトの出発時が結構忙しい。	
テーマパーク (役員)	来客数の動き	・国内旅行については団体客、個人客とも前年同月比で比較するとやや良い状況にあるが、海外からのインパウンド客は地元の航空路線の減便の影響もありやや減少しており、トータルとしては横ばいに推移している。	
その他レジャー 施設(総支配 人)	来客数の動き	・入会者数と退会者数がほぼ均衡しているが、若干プラスというのが現状である。本来は、春先からの伸びがもっと欲しいところではあるが、先行きは不透明である。	
美容室(経営 者)	来客数の動き	・来客数の減少を単価アップで補っている。美容業界全体では、今年に入ってから売上が前年割れをしている店が多いようである。	
住宅販売会社 (従業員)	お客様の様子	・問い合わせやイベント来場は、継続的に一定数ある状況が続いている。しかし、消費税の増税時期が不透明になってきたことや、金利も上昇する雰囲気になくなってきたことで、客の動きがゆっくりとなり、結論をなかなか出さなくなってきた。	
住宅販売会社 (従業員)	お客様の様子	・マイナス金利、消費税率アップと、客を刺激する要因は多いが、契約には結びついてはいない。	
住宅販売会社 (従業員)	お客様の様子	・前回と比べ大きな変化もみられず、展示会場の来場者数にも変化がみられない。	
やや悪く なっている	商店街(代表 者)	来客数の動き	・駅前にバスターミナルと電車停留所が移動になり、交通結節機能の強化によって集客率の向上が期待されたが、逆に車での通行が阻害され、その影響で商店街への来客数が減り、各商店の売上も来客数も減少している。机上の空論で終わりはしないが、今後が非常に心配だ。
	商店街(代表 者)	販売量の動き	・当商店街では再開発工事が行われており、店舗数も減少し通行人も若干減少しているので、魅力が落ちているように思える。このため、当商店街の経済状況は若干悪くなった。
	一般小売店[精 肉](店長)	来客数の動き	・地元のリピーター客の来店回数が減ってきている。
	一般小売店[鮮 魚](役員)	販売量の動き	・さすがに北陸新幹線開業から丸1年経過すると、昨年の印象が強すぎるからかトーンダウンは否めない。特に昨年の今頃は各地で北陸フェアや石川に関するイベントが数多くあったので、その分の減少はいかんともしがたい。
	一般小売店[書 籍](従業員)	販売量の動き	・例年、4月は文具の販売のピークだが、今年の4月後半は思いのほか伸びなかった。来客数も減り、販売数も悪かった。

	百貨店（売場主任）	販売量の動き	・中間層は消費にシビアであり、可処分所得が増えない中で生活防衛意識は依然強く、必要最小限以外のものに関する購買はより慎重になっている。また、円高、株安の影響で、富裕層を中心とした高額品の販売も鈍く、厳しい状況が続いている。
	百貨店（営業担当）	お客様の様子	・例年4月はゴールデンウィークに向けた旅行関連の消費が大変多いのだが、今年は株価の低迷や熊本地震があり、消費に対して今一つ消極的になっている。特に旅行関係の商材の落ち込みが激しいという状態である。
	百貨店（営業担当）	来客数の動き	・天候不順や熊本地震の影響で地元客の来客数が低下している。去年は北陸新幹線が開業し、4月は観光客が多く、地元客も旅行用に衣料品やバッグなどの購入が多かったが、今年はそれらの動きが悪い。観光客は多いが、買い回りに繋がっていない。
	スーパー（総務担当）	お客様の様子	・食品部門では、前月同様に来客数が前年割れの状況が続いている。しかし衣料品部門では気温上昇のため、連休を前にして初夏物の売行きが良くなっている。
	コンビニ（店舗管理）	それ以外	・売上自体は前年並みであるものの、パートやアルバイトの人件費が高騰している。また、募集コストも上昇し、利益を圧迫している。
	衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・実質賃金下がっている状況で、消費は非常に敏感に変化する。国内外の経済の悪化や熊本地震などにより、消費者は年間を通して常にディフェンシブにならざるを得ない。
	衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・依然として悪循環が収まらず、売上の低下が続いている。当社だけではなくファッション衣料全体が苦戦している。
	乗用車販売店（経営者）	来客数の動き	・4月に入って週末のイベントにも来場者数が極端に少なくなっている。新車、中古車とも受注が良くない。
	その他小売 [ショッピングセンター]	来客数の動き	・春需要を期待したフォーマル、スーツなど高額品需要が弱かった。春休み期間中は前年並みまで需要が戻ったが、衣料、住まいの品、食料品を合わせると、来客数は2%ほど悪かった。しかし、買上点数は前年並みで、買上単価は昨年から前年を上回る状態が続いている。
	その他小売 [ショッピングセンター]（統括）	来客数の動き	・買上率、客単価などをみると客の購買意欲自体は大きく変わっていないようにみられるが、昨年度からの金沢駅前含め周辺競合環境の影響により来客数の減少がみられる。特に昨年度に自店で実施したりリニューアルで、入替えが多かった業種のアパレルや飲食店の影響によるものが大きい。
	高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・暖冬により桜の開花が例年より早く、春休み後の集客が全く振るわなかった。
	一般レストラン（統括）	来客数の動き	・3月後半から北陸新幹線効果が少し弱くなった感覚はあったが、それ以上に地元客の来店頻度の減り方が目立ち、数字に表れるようになってきた。
	都市型ホテル（スタッフ）	販売量の動き	・北陸新幹線が開業して1年が経ち、昨年の盛り上がり比べてどれくらい悪くなるかと心配したが、宿泊部門はやや減少でとどまりそうである。宴会部門は、昨年の盛り上がりの反動で減少したことに加え、熊本地震による自粛で直前キャンセルが3件あった。レストランも引き続き地元客離れが続いている。
	通信会社（店舗統括）	来客数の動き	・来客数が2割ほど減っている状況が続いている。
	通信会社（役員）	販売量の動き	・携帯電話ショップへの国による指導の影響によって、インターネットサービスの問い合わせ数、契約数が減っている。
	悪くなっている	その他専門店 [酒]（経営者）	・とにかく今はさっぱりである。ちょっと記憶にないくらい暇である。来月はゴールデンウィークということでお金を他のところに使い、酒などにはあまりお金を使わないため売上が少ない時期がやってくる。
		通信会社（営業担当）	・そもそもの1台目の購入需要に対して、販売が伸び悩んでいる。プラス1台の購入の決定率も低下しており、家族購入も減っている。
企業動向	良くなっている	-	-

関連 (北陸)	やや良くなっている	一般機械器具製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・国内と北米市場の受注が伸びてきている。
		不動産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・現在、個人客からの問い合わせが増えてきており、契約成立につながっている物件が、この4月は増加している。
		司法書士	取引先の様子	・北陸新幹線の用地買収によって長期借入金の返済をすることができたり、これまで誰も買い手がいなかった郊外の工場跡地が北陸新幹線工事関係会社に買い取ってもらえたなど、北陸新幹線工事絡みの仕事が増えた。
		税理士（所長）	取引先の様子	・最近2～3か月の状況を見ると、私の接する中小企業関係の会社はそれほど悪くないという状況である。官公庁からの発注もしくは、建設工事ではないが医薬品関係の影響で、設備投資も比較的活発であった。最近までは取引先の社長の様子からも順調な様子がみられる。
変わらない	繊維工業（経営者）	受注量や販売量の動き	・国内市場は相変わらず不安定だが、スポーツ用途などの輸出でなんとか受注を確保している状況である。	
		取引先の様子	・業界全体の動きをみていると、二極化が進んでいるような状況である。	
	精密機械器具製造業（役員）	取引先の様子	・国内の得意先の店頭での様子は、依然として厳しいままの状況が続いているようで、休日の小売店の売上もさほど伸びていないと聞いている。また大手小売りチェーン店も、引き続き在庫調整で仕入を抑えているところが多いようだ。	
			・2月は少雪のため除雪作業に終われることもなく、3月の年度末工事の完成に向けて作業に追われていたが、現在はそれほど多忙感もない。これは例年のことであり、悪くなったとは考えていない。	
	建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・荷物量が増えていない。軽油価格も下げ止まり、厳しい状況が増えていく。	
	輸送業（配車担当）	受注量や販売量の動き	・ゴールデンウィーク商戦の広告チラシの出稿は昨年より良かったが、ここから上向きになるとは思えない。	
	新聞販売店〔広告〕（従業員）	受注価格や販売価格の動き	・売れ筋の商品群の価格帯が少し下がってきている。販売単価だけでなく、数量も減少傾向にある。	
やや悪くなっている	建設業（役員）	受注価格や販売価格の動き	・特に当地域では、受注価格競争が一段と激化しており、受注環境が大幅に悪化してきた。	
	輸送業（配車担当）	取引先の様子	・中国の景気の悪化に伴い、輸出関連の荷動きが悪くなっている。	
	金融業（融資担当）	受注価格や販売価格の動き	・マイナス金利政策の影響で金融機関の収益環境が劇的に悪化する一方で、資金調達環境が良いからといって、根本的な資金需要が発生しているわけではない。単に肩代わりや借換需要が発生しているだけである。	
	金融業（融資担当）	取引先の様子	・昨年の北陸新幹線開業で、新たな需要が喚起されて景気がよかったとの声が多かった。しかし1年経ち、観光業界も昨年の勢いはなくなった様子である。建設業界も公共工事が減少して、売上は下振れしている。	
	悪くなっている	-	-	-
雇用 関連	良くなっている	-	-	-
関連 (北陸)	やや良くなっている	新聞社〔求人広告〕（役員）	求人数の動き	・4月の求人広告売上は、前年同月とほぼ同じである。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・有効求人倍率は1.65倍で、前年同月より0.1ポイント上昇している。また、73か月連続で前年同月比を上回っている。
	変わらない	人材派遣会社（役員）	求職者数の動き	・派遣登録者数が激減している。企業からの求人に対応できない。
		人材派遣会社（社員）	周辺企業の様子	・高額時給の求人広告掲載や応募者は増えたが、マッチング率は低かった。
求人情報誌制作会社（編集者）	求人数の動き	・発行1回あたりの求人掲載件数があまり変わっていない。		
	新聞社〔求人広告〕（担当者）	求人数の動き	・求人広告件数は前年同月比で6割程度と落ち続けている。特に落ちているのは高額な枠の数で、昨年の3割程度と特に落ち込んでいる。お金をかけてでも人数をかき集めるといった状況は過ぎて、充足率を見ながらの出稿を行っているようだ。市況についても、その面では大きな変化までは起こらないと考える。	

	職業安定所（職員）	求人数の動き	・有効求人倍率は、ここ4か月間、ほぼ同水準となっている。
	職業安定所（職員）	周辺企業の様子	・一部の事業所は良くなっているとの声も聞かれるが、仕事量に対して利益がないとの声も多いため、全体として変わらない。
	民間職業紹介機関（経営者）	求人数の動き	・求人数は横ばいが続く。一方で求職者は増加しているが、高齢化で成立が難しくなっている。
	学校〔大学〕 （就職担当）	求人数の動き	・就職活動が解禁されてから2か月が経ち、求人票を出してくる企業数はピークを過ぎたように思うが、製造業やIT関連企業を中心にまだ手堅く出てきている。
やや悪くなっている	-	-	-
悪くなっている	-	-	-